

住民の意向を組み込んだデザインプロセスの研究 —由比ガ浜通りを事例として—

山家京子研究室 石坂 佳美

研究概要：由比ガ浜通り商店街では景観形成基準が制定されているが、必ずしも有効に機能しているとは言い難い現状がある。本研究では、地域性の継承と地域固有の顕在化及び専門家・行政・住民の三者による景観形成のあり方の検討をし、住民の意向を組み込んだデザインプロセスの提案と、それを基にした商店街のデザインを行っている。

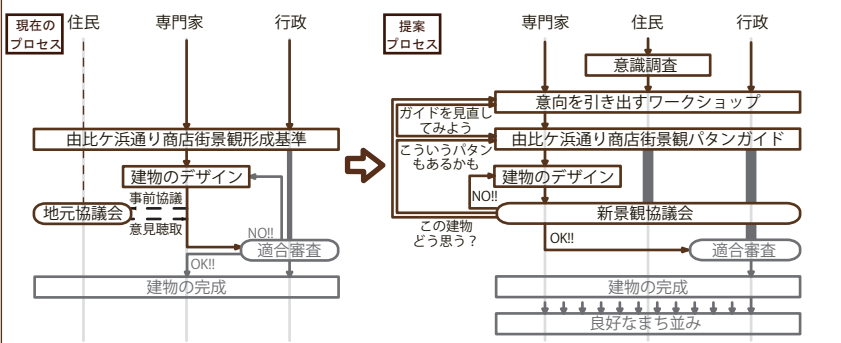
研究目的：まちは日々変化し、どこへ行っても同じような風景が並んでいく。また、まち並みは建築を学んだ者だけでなく、多くの生活している人の原風景となり影響を受けていく。住民の方がデザインプロセスに介入することにより、より「〇〇らしさ」が継承していくことができるのではないかと考え、研究を始めた。



まちはその風景を感じ取る間もなく日々解体され、そして新たな建物が建てられていく。「昔ながらの」と呼ばれる建物は特にそれに該当し、面影のない姿へと更新され、いつのまにか好きだった風景がなくなっていく。そのようなことが起きないように、日々まちの風景を考えていきたい。

現在の景観ルールの作成から審査までのプロセスを充実させることにより、

- ・地域性の継承と地域固有の要素の顕在化
- ・専門家・行政・住民の三者での景観形成



□パタンガイドを用いたファサード・店先空間のデザイン



現状



Type A



Type B

当研究にご指導ご協力頂いた多くの皆さまに感謝いたします。

□住民の意向を引き出すワークショップの実施 - □由比ガ浜通り商店街景観パタンガイドの作成 -

- 第一部：まち歩き
《情報の抽出》
- 第二部：茶話会
《情報の抽出、共有》



景観に関する意識調査・ワークショップ・ワークショップアンケートから54のパタンを作成した。

□新景観協議会

設計した建物の発表・審査だけでなく、パタンガイドの展開協議を行う。パタンガイドは、変化し続ける由比ガ浜通りのまち並みを追うように更新する。今後、より由比ガ浜通り特有の要素が顕在化され、まち並みは継承されていく。

模擬新景観協議会を実施した。



苦労した点や感想など：この研究は本当に楽しく幸せな気持ちで行うことができた。大変なことも多くあったが、研究に携わっていただいた多くの方の力で完成することができたと思っている。